

資本は必要であるが、資本家を必要とはしない。然らば、將來に於ては、労働者は如何して資本を得られるか。それには私の考へる所では、預金にも貸金にも全然利子を廢する事にする公營銀行の設立が第一に肝要である。そして他の全ての私營の銀行は廢せられ、資金の融通は悉くその銀行に於てなされる様にならなくてはならない。

何よりも大切なのは、吾々の目的としてゐる社會は、被取のない壓制のない全ての人が獨立した生産者として自由を享受し得る自由社會である事を忘れてはならない。社會主義の國家が出現して、それが餘りに機械的な組織のもとに統一されるとき、却つて個人は壓迫され、個人の創意は無視され、個人が社會に隷屬せしめられて了ふ様な結果になる。

社會とは制度である。實體は個々人である。社會の名のもとに個人を壓迫する様なことがあつてはならない。社會は個々人の自由を保障し、その個性を十分に發揮せしめる爲めに存すべき筈である。個々人の意志を外にして社會の意志などといふものはない。社會の意志の名のもとに個々人の意志を犠牲にすることは間違つてゐる。社會主義者のある者が餘りに社會化を極端に押し進め、却つて個人の自由や創意を無視して了ふに至るのは、甚だ嘆かましいことである。

7 私 有 財 産 の 問 題

私有財産制度の存するところから貧富の懸隔が生じ、そしてその結果は有産者階級と無産者階級とに分れ、一方は支配し被取し、一方は支配され被取される様になつたものと見る立場よりして、私有財産制度の廢止の主張が生れて來てゐるのであるが、この問題は、なほ深く考究して見る必要がある。

同じく私有財産制度の廢止を叫ぶ人々の間にもいろいろ相異した主張點がある。集産主義者と共産主義者とは自ら異なる見解を持つてゐる。今こゝではそれ等の相異點を一々述べてゐる事は出来ないが、兎に角私有財産としてどの範圍まで廢止するかについて、いろいろ異つた意見が存するのである。共産主義者にしてもすべての私有財産を徹底的に廢止する事を主張するものではなからうが、クロポトキンの言つてゐるやうに、各人はその力に従つて働き、その必要に應じて與へられる社會を理想とするのであるから、私有財産なるもの、可なり廣い範圍にまで亘つて廢止さるゝことを要望してゐるものである事は言ふ迄もない。集産主義者は主として資本、土地、生産手段の國有を主張するのであつて、消費的財産までも共有にしようといふのではない。

クロポトキンの主張するやうな共産主義は理想としては立派なものであるに違ひないが、その實現